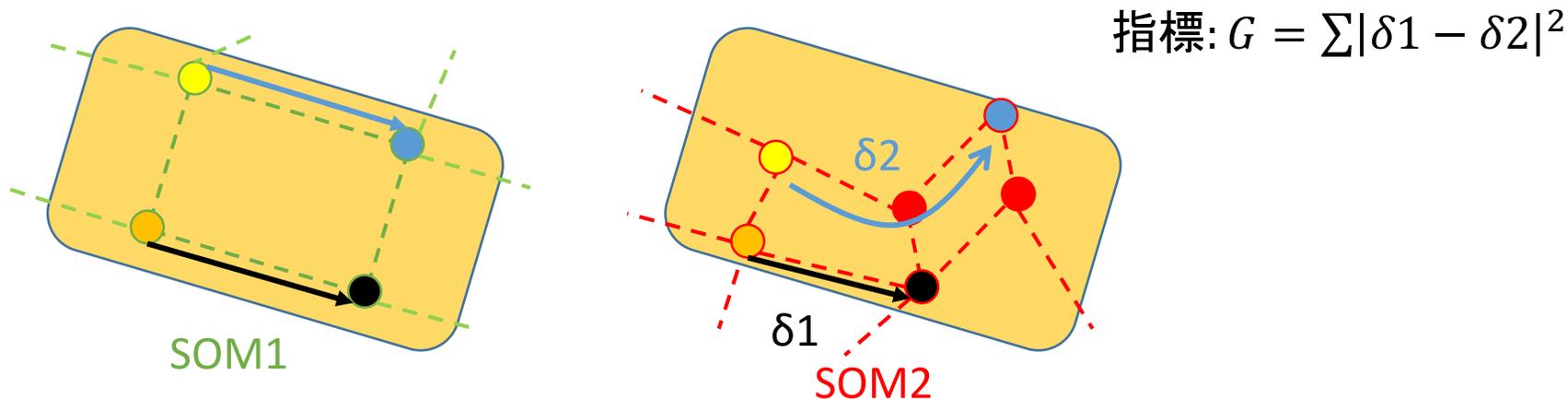


学習結果の対応づけを用いた自己組織化写像のねじれ評価

D-4 大原成裕、山崎啓介、渡辺澄夫(東京工業大学)

自己組織化写像(SOM)は高次元データの可視化や解析などに用いられるが、SOMの学習結果は一意でなく必ずしも低次元多様体がきれいに近似できるわけではない

目的:学習結果同士を照らし合わせて学習結果の評価を行う



結果:SOMのねじれを数量化することができた